

した。また、様々な方々と話をする機会となり、同窓の絆を深めることができます。また、富士市、富士宮市で行われた第二回富士山女子駅伝（全日本大学女子駅伝競走）では、多くの同窓が競技役員として運営に協力しています。沿道には多くの日本体育大学の大歓が掲げられ「がんばれ日体大」の声が響いていました。毎年この時期、応援することが、地域の同窓生としての楽しみになっています。

本年度は、大会の駅伝大会応援をしたのちに堀勇前静岡県同窓会会长にも御参加を頂き東部地区の小学校の校長・教頭・地教委の指導主事等十六名が集まり情報交換会を行いました。東部地区には二十七名の同窓生が小中学校の管理職、指導主事として活躍をしています。体育人として学校体育の充実、部活動の指導に力を発揮すると共に学校運営にも携わっています。同窓生の絆を深めながら、互いに刺激し合い切磋琢磨していこうではありませんか。

「元気で行こう日体大！」

焼津にある小さな旅館を私は定宿にしています。決して豪華な旅館ではないが、なぜかそこに居るだけでは気持ちが満たされる。それは玄関を一歩入るとおもてなしの心が充满しているからです。廊下に生けられた花、料理の味、器、そして女将を始めとしたスタッフの最高の笑顔ともてなしが、何ともいえない心地よさを与えてくれるのです。

今年の正月、その女将から年賀状が届きました。そこには達筆な字でこう書かれていました。禅語の一つである「一華開五葉」。一輪の花が五枚の花びらを開き、やがて実を結ぶ。何の氣負いもなく自然体で力強い繁栄の象徴です。この五つの花びらが開いてこそ、次の世代にすべてが継承される、そのような意味だそうです。

現在、中部地区は、様々な課題を抱え悪戦苦闘の最中です。ほんの少しづつの歩みであっても、同窓会活動がやがて花が実を結び、美しくそろへます。各支部とも会費納入率の低下、同窓会活動への敬遠、個人情報の関係で若手同窓生の連絡先が十分に把握しにくい等課題がまだまだ山積していますが、日体大同窓生としての太い絆と誇りを信じ一層の努力をしていきたいと思います。ご協力お願いします。

静岡県同窓会の大きな事業の一つに就職対策研修会があります。毎年、採用を目指す熱い思いを持った後輩が参加しています。このところ四十年前とは比較にならないほどの厳しい採用状況にあり、採用されるための努力は並大抵のものではないと思われます。

さて、平成二十七年二月二十八日、次の二つの目的を掲げて西部地区の総会を開催しました。

一、年代・競技種目や職種等を超えてつながりをより一層深める。

二、若い同窓生の参加を得て、同窓会の組織のすそ野を広げる。

本総会では四十名を超える会員に参加していただきました。特に前に述べたように、多くの難題を克服しながら今日の職に就いている二、三十代の若い同窓生の参加が全体の三分の一をしめ、活気にあふれる総会となりました。

また、この会を通して、より一層一体となり選手が通過する一時間も前から休む事なく応援し続けます。瞬ではありますが、選手が歯をくいしばり走り抜けていく時は、応援団のボルテージも最高潮になりとて

けるように全力で取り組んでいるといいます。

微力ながら精一杯精進してまいりた

同窓生のつながりと ひろがり



静岡県保護者会会長
鈴木 広昭



西部地区長
齋藤 健二（昭48卒）

日本体育大学静岡県同窓会の皆様におかれましては、保護者会の活動に対しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

保護者会は現在二三名の学生とその保護者が所属しております。役員会を年に五回実施し、保護者の皆様に行事や催しを計画し、その案内などを送付させて頂く活動などを行つております。

毎年六月に総会を開催し、大学から教授やキャリア支援担当者を招いて学校での生活や授業内容、就職状況について講演して頂いております。就職に関しましては保護者の方にとりまして一番関心がある事で担当者に多数の質問もでました。

他方、十二月には、平成二十五年度より富士市、富士宮市で開催がされるようになります。全日本大学女子選抜駅伝競走（富士山女子駅伝）の応援、さらに一月二日には箱根駅伝の応援にも私達が参加しております。大学の応援団、チアリーダーと一緒に選手が通過する一時間も前から休む事なく応援し続けます。

また、この会を通して、より一層同窓生同士のつながりとひろがりの大切さを感じることができました。

頑張れ日体大生



中部地区長
静岡市立中藁科小学校
櫻田 人士（昭55卒）